

令和6（2024）年度

第5学年

学 習 の 内 容 と 評 価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かに豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年【論理国語】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力。 ・テキストを読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。 ・文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、分析する力。 ・自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための構成力。 ・自分の考えを深めたり、他の人によりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。 ・言語についての知識やそれを活用する技能。 	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識・理解	・テキストを読んで、構成・展開・要旨などを的確にとらえ、理解する力を身につける。
規準 B：分析	・テキストを読み、批評することを通して、人間・社会・自然などについて主体的に考える力をつける。
規準 C：構成	・テキストの読解を通してその作品を分析し、他の作品と比較したり、他の作品とのつながりを考察したりできる力を身につける。
規準 D：言語の使用	・テキストの読みを深めるために、自身の意見やアイデアを持続性、一貫性、及び論理性のある方法で整理する力を身につける。
	・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
思考・判断・表現	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取り組み具合をもとに評価する。
使用教材	
教科書：論理国語（大修館書店）	
副教材：入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500（いっずな書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）	
学習内容	
<p>主に以下のような活動を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことを通して、内容や構成、論理展開の把握、要旨の把握を行う。 ・読むことを通して、主張と資料との関係を把握する。 ・主張や根拠を批判的に検討し、妥当性を吟味しながら文章を読む。 ・文章構成や論理展開、表現の仕方を意識して文章を読む。 ・情報の妥当性、論点の明示を意識して文章を書く。 ・文章構成や論理展開を工夫して文章を書く。 ・表現の仕方や段落構造を吟味して文章を書く。 	
備考	
論理国語は 5 年と 6 年で 2 単位ずつ分割で履修します。両方履修して、論理国語を履修したことになります。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かに豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年【文学国語】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能 ・我が国の言語文化に対する理解を深める力 ・深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力 ・言葉がもつ価値への認識を深める力 ・言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度 	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識・理解	知識・理解の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 B：分析	分析の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 C：構成	構成の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 D：言語の使用	言語の使用の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
思考・判断・表現	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取り組み具合をもとに評価する。
使用教材	
教科書：文学国語（東京書籍）	
副教材：古典文法（京都書房）・古典文法ドリル（京都書房）・漢文の習得（浜島書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）	
学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解する ・作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論する ・小説や詩歌などを創作し、批評し合う ・様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめる <p>* 古典や古典に関する文章も扱います</p>	
備考	
文学国語は 5 年と 6 年で 2 単位ずつ分割で履修します。両方履修して、文学国語を履修したことになります。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年【古典探究】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・時代背景や社会背景を考えながら、他者・古人の考えや思いを言語表現を通して、深く理解する力。 ・文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、読み取り、分析する力。 ・自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝える力。 ・自分の考えを深めたり、他の人によりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。 ・言語についての知識やそれを活用する技能。 	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識・理解	小テスト・期末テスト・授業内小レポート・発表活動
規準 B：分析	期末テスト・授業内小レポート・学期末レポート・発表活動
規準 C：構成	授業内小レポート・学期末レポート・発表活動
規準 D：言語の使用	文法小テスト・漢文句法小テスト・語彙の小テストなど ＊状況によって、評価材料の増減があり得ます。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	小テスト・期末テスト・授業内小レポート・発表活動などを用いて評価する。
思考・判断・表現	期末テスト・授業内小レポート・学期末レポート・発表活動・小テストなどを用いて評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取組とその到達度・提出物・議論や討論への参加状況とその成果を用いて評価する。
使用教材	
教科書：古典探究古文編（大修館書店）・古典探究漢文編（大修館書店）	
副教材：古典文法（京都書房）・古典文法ドリル（京都書房）・漢文の習得（浜島書店）・三訂版対応 漢文基本ノートβ（浜島書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）・三訂版わかる読める解ける Key & Point 古文単語 330（いっぴな書店）	
学習内容	
<p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安～近世までの代表的な古典作品の読解 ・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集を中心とした和歌の理解 ・文学・文芸・芸術に焦点をあてた歴史的・社会的背景の理解 <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な故事の理解・思想の基礎的読解 ・『史記』を中心とした史話の基礎的読解・代表的な漢詩の理解 ＊古典文法の基礎力の伸長 ＊基本的な漢文句法の定着 ★近代以降の文学評論や古典に関わる文章を読み比べることも入ります。 	
備考	
古典探究は 5 年と 6 年で 2 単位ずつ分割で履修します。両方履修して、学習指導要領上の標準単位数 4 単位を履修することで古典探究を履修したことになります。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年 DP【日本語 A 文学】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・異なる時代、スタイル（文体）およびジャンルの多様なテキストを読み解き、鑑賞する力 ・個々のテキストを綿密かつ詳細に分析し、関連性のあるものと結びつけることができる力 ・テキストの格調高さや様式的、美的な質の味わいを理解する力 ・文化的背景の異なる人々の間で異なるものの見方があることや、それらの見方がどのように意味を構成しているかを認識する力 ・文学作品を独自に批評する力と、そこに示す自分の考えを裏付け（根拠）に基づいて構成する力 	
<p>〈評価規準別〉</p> <p><u>規準 A 知識、理解、解釈：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品やテキストについて、理解する力を身につける。 ・作品やテキストについての知識と理解を使用して、グローバルな問題に関する結論を導き出す。 ・作品やテキストを参照し、裏づけとなる内容をもとに考えを深める。 <p><u>規準 B 分析と評価：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの特徴や作者の選択に着目し、それらがどのように意味を形成するか分析する力を身につける。 ・言語、技法、スタイルの選択に着目し、他の作品との比較を通して、それらの選択の持つ効果を分析する力を身につける。 <p><u>規準 C 焦点と構成：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の考えに一貫性を持たせ、焦点を絞って組み立て、効果的に構成する力を身につける。 <p><u>規準 D 言語：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。 ・正確かつ明確であり、より多様な言葉遣いを身につける。 	
ISS/DP 評価規準	評価方法
<p>※校内での規準</p> <p>規準 A 知識・理解（10 点）</p> <p>規準 B 分析（10 点）</p> <p>規準 C 構成（10 点）</p> <p>規準 D 言語の使用（10 点）</p> <p>※IBDP での規準</p> <p>規準 A 知識、理解、解釈</p> <p>規準 B 分析と評価</p> <p>規準 C 焦点と構成</p> <p>規準 D 言語</p>	<p>レポート・発表活動など</p> <p>レポート・発表活動など</p> <p>レポート・発表活動など</p> <p>レポート・発表活動など</p> <p>* 状況によって、評価材料の増減があり得ます。</p> <p>学期ごとに評価材料と評価基準についての説明を別紙で配布します。</p>
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
<p>知識・技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>レポート・発表活動・試験・学習者ポートフォリオなど</p> <p>レポート・発表活動・試験・学習者ポートフォリオなど</p> <p>レポート・発表活動・学習者ポートフォリオなど</p>
学習内容	
IB のガイドの定める方法によって扱う予定の作品を決めます。扱う予定の作品については、コースアウトラインとともに年度初めに作品リストを提示します。このリストや論理国語・文学国語の教科書、リストに上がった作品に関する評論をもとに学習を進めます。また複数の作品から生徒自身が扱う作品を決めることもあり得ます。	
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

地理歴史科・5 学年【歴史総合/歴史総合(IM)・2 単位】 Modern and Contemporary History

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
5 学年【歴史総合/歴史総合(IM)】の目標/伸ばしたい力	
<p>近現代史の展開過程について、時代の転換を意識しながら学習し、現代の諸課題について様々な視点や立場から歴史的背景をふまえて多面的に考察できるような歴史的思考力を培うことを目標とします。どのような進路（分野）に進むにしても、現代の国際社会で活躍するグローバル人材として不可欠な近現代史の大まかな流れを理解し、資料から読み取ったことを根拠に論じる学習姿勢を身に付け、論理的思考力や発信力をのばしていきます。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。
使用教材	
教科書：詳解歴史総合（東京書籍）	
学習内容	
<p>(1) 歴史の扉： 歴史と私たち／歴史の特質と資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活が歴史とどのようにつながっているか、様々な資料を活用してどのように議論することができるのか、考察します。 <p>(2) 近代化と私たち： 結びつく世界と日本の開国／国民国家と明治維新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18 世紀の世界はどのようにつながっていたのか、アジアを中心に引き上げ、資料を用いて多面的・多角的に考察します。 ・19 世紀においてアジア諸国と欧米諸国との関係がどのように変容したのか、国民国家がどのように形成されたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。 <p>(3) 国際秩序の変化や大衆化と私たち： 第一次世界大戦と大衆社会／経済危機と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦がどのように展開し、大戦後にどのように国際協調体制が形成されたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。 ・世界恐慌がどのように国際協調体制の動揺につながり第二次世界大戦にいたったのか、第二次世界大戦後にどのような戦後秩序が形成されたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。 <p>(4) グローバル化と私たち： 冷戦と世界経済／世界秩序の変容と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三世界の台頭、西ヨーロッパ諸国や日本の経済成長等が冷戦の過程にどのような影響を与えたのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。 ・1970 年代以降の経済変容がどのように冷戦終結に影響したのか、冷戦終結によって世界はどのように変容したのか、資料を用いて多面的・多角的に考察します。 <p>(5) 現代的な諸課題の形成と展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題のうちからいくつかのテーマを取り上げて問いを設定し、近代化・大衆化・グローバル化の指標を意識しながら、歴史的背景をふまえて議論します。 	
備考	
詳細については、第 1 回授業で配布する資料を参照してください。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
5 学年 DP【歴史】の目標/伸ばしたい力	
<p>DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探究していくことになります。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマ取り上げます。また、HL 選択項目としては四つの地域世界のうちヨーロッパ世界を中心に学習していきます。様々な史資料の分析、調査、プレゼンテーション、議論、エッセイライティングを通して歴史的思考力を高めています。</p>	
ISS/DP 評価規準	評価方法
<p>DP 歴史の次の 4 つの評価目標（評価規準、観点）に基づいて評価します。4 つの観点の合計点は 40 点です。4 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。</p>	
<p>規準 A：知識と理解（10 点）</p> <p>規準 B：応用と分析（10 点）</p> <p>規準 C：知識の統合と評価（10 点）</p> <p>規準 D：適切なスキルの活用と応用（10 点）</p>	<p>下記の①～④の 4 つの評価対象によって評価します。①～④のそれぞれについて、A～D の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。</p> <p>①各学期に実施するテスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は資料分析とエッセイライティング、Paper 2 と Paper 3 はエッセイライティングです。</p> <p>②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験の形式に則って実施します。</p> <p>③IA（内部評価）の歴史研究の Final Draft（最終稿）</p> <p>④その他、学習状況全般：</p>
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 A・B に対応します。</p> <p>社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 C・D に対応します。</p> <p>社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、IA や授業中の活動、振り返りなどの記述から総合的に評価します。</p>
学習内容	
<p>〈1 学期〉</p> <p>○第一次世界大戦の原因・経過・結果</p> <p>…Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容に対応します。第一次世界大戦の原因・経過・結果のそれぞれについて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。</p> <p>○戦間期前半のヨーロッパ</p> <p>…Paper 3-14「両大戦間のヨーロッパ諸国（1918～39 年）」と Paper 3-15「ヴェルサイユからベルリンへ：ヨーロッパの外交関係（1919～45 年）」の内容のうち、戦間期前半の 1920 年代の国際関係や世界の大きな動きについてドイツをめぐる動向を中心に取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。</p> <p>〈2 学期〉</p> <p>○戦間期後半のヨーロッパ</p> <p>…Paper 1-3「世界規模の戦争への動き」の「事例研究 2：ドイツとイタリアの拡張政策（1933～40 年）」の内容に対応します。戦間期後半の 1930 年代のヨーロッパの動きについて取り上げるとともに、資料分析の手法を身に付けていきます。また Paper 3-14「両大戦間のヨーロッパ諸国（1918～39 年）」の内容のうちスペイン内戦の原因と経過について詳しく取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。</p> <p>○ヨーロッパにおける第二次世界大戦の原因・経過・結果</p> <p>…Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容を中心にして、Paper 3-15「ヴェルサイユからベルリンへ：ヨーロッパの外交関係（1919～45 年）」の内容ともオーバーラップさせながら、ヨーロッパにおける第二次世界大戦の原因・経過・結果のうち経過を中心に取り上げて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。</p> <p>〈第 3 学期〉</p> <p>○アジア太平洋における第二次世界大戦の原因・経過・結果</p> <p>…Paper 1-3「世界規模の戦争への動き」の「事例研究 1：東アジアにおける日本の拡張政策（1931～41 年）」の内容に対応しま</p>	

す。満洲事変から真珠湾攻撃までの東アジア情勢について取り上げるとともに、資料分析の手法を身に付けていきます。また Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容として、アジア太平洋における第二次世界大戦の経過について取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。

〈年間を通して〉上記のほか、IA（内部評価）の「歴史研究」にも取り組みます。

★詳細については第一回授業で配布する「DP 生徒用ガイド : History HL」および「DP History subject outline : DP 歴史 2 年間の学習予定」を参照してください。

備考

「歴史総合」の履修を代替するものとする。

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
5 学年【政治・経済】の目標/伸ばしたい力	
<p>「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公民的資質)を養うことが、本校公民科の目標である。</p> <p>現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成したい。3 学年の「社会（公民分野）」、4 学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきたい。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	政治・経済に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	政治・経済を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。
使用教材	
教科書：高等学校 政治・経済（清水書院）	
学習内容	
<p>担当教員が作成した学習プリントを用い、映像資料なども活用して学習していきます。</p> <p>おもな学習内容は、以下のとおりです。</p> <p>○現代政治のしくみと日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として政治と法のあり方、憲法と基本的人権、平和主義、統治機構、選挙制度、地方自治について学習します <p>○現代経済のしくみと日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として市場経済とメカニズム、景気変動、金融と財政、日本経済史、企業と労働問題について学習します。 <p>○現代日本の諸課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内政治、国内経済の知識や見方考え方をもち現代日本の諸課題を考察します。 <p>○現代の国際社会と政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として国際社会の成立、国連をはじめとする国際機関や国際協力、紛争と軍拡軍縮について学習します。 <p>○現代の国際社会と経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として国際貿易と分業、国際収支と為替、第二次世界大戦以降の IMF-GATT 体制、EU や ASEAN などの地域共同体について学習します。 <p>○国際社会の諸課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで学んだ見方考え方を働かせ、国際社会の諸課題について考察します。 	
備考	

6 か年を通した教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- ・ 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- ・ さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- ・ 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

5 学年【数学Ⅱ】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- ・ 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- ・ 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- ・ 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- ・ 数学が世界で果たす役割を見出す力

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。
思考・判断・表現	現実場面の問題を数学的モデルを用いて解決したり、数学の事象の中から問題を見出し、またそれらプロセスを振り返り統合的・発展的に考えていく力および適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。
主体的に学習に取り組む態度	数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。

使用教材

教科書：数学Ⅱ Advanced（東京書籍）、数学Ⅲ Advanced（東京書籍）

副教材：TGUISS 数学 5・6（サンプルセス）

学習内容

① 座標幾何Ⅰ（図形と方程式・不等式）〔4 月～9 月〕

直線や曲線などの平面図形に関する条件を適切な座標系や式を用いて表現・処理し、それらの図形の性質や関係を見いだしたり確かめたりできるようにするとともに、その方法を事象の考察に活用できるようにします。ここでは特に、その基本的な手法やその考え方を学びます。

（主な学習内容）点と直線、円、軌跡と領域、平面上の曲線

② 三角関数〔9 月～11 月〕

具体的な事象の中から周期的な変化を見出し、三角関数を用いて表現・処理し、問題を考察し、解決することができるようにします。

（主な学習内容）一般角、弧度法、三角関数の相互関係、三角関数のグラフ、三角関数の加法定理

③ 極限と微分積分の考え〔12 月～3 月〕

具体的な事象の考察を通して、極限概念を理解するとともに、極限の考えを用いて微分の考え、積分の考えを理解し、それらの関係を見出すことができるようにします。また、これらを事象の考察・処理に活かすことができるようにします。

（主な学習内容）極限、微分係数、導関数、導関数の応用、不定積分、定積分、面積

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。

備考

6 か年を通した教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- ・ 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- ・ さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- ・ 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

5 学年【数学 B】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- ・ 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- ・ 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- ・ 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- ・ 数学が世界で果たす役割を見出す力

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。
思考・判断・表現	現実場面の問題を数学的モデルを用いて解決したり、数学の事象の中から問題を見出したりする力、またそれらプロセスを振り返り統合的・発展的に考えていく力および適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。
主体的に学習に取り組む態度	数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。

使用教材

教科書：数学 B Advanced（東京書籍）、数学 C Advanced（東京書籍）

副教材：TGUISS 数学 5・6（サンプロセス）

学習内容

① ベクトル [4 月～10 月]

ベクトルや媒介変数表示について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、ベクトルの有用性を認識し、それらを用いて事象を数学的に考察し表現できるようにします。

（主な学習内容）平面上のベクトルとその演算、平面上のベクトルと図形、空間座標、空間のベクトル

② 推測統計 [11 月～3 月]

離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養います。

（主な学習内容）確率分布、推定、仮説と検定

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり、内容を加えたりする可能性があります。

備考

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p> </div> <p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 ・ さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動 ・ 数学を使い、つくる活動 <p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
5 学年【数学特講イメージョン A】の目標/伸ばしたい力	
<p>将来的に海外の大学進学希望者で SAT の受験を必要とする生徒に対しての学習と演習を目的とし、また英語で secondary level の数学を学ぶ機会を提供する。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	<p>SAT の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テストを通して、評価します。</p> <p>SAT の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テスト（や数学探究）への取組を通して評価します。</p> <p>SAT の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テスト（や数学探究）への取組を通して評価します。</p>
使用教材	
教材：SAT Math Workbook(Barron's)・DP Mathematics SL (Haese mathematics)・科目「数学Ⅱ」「数学 B」で使用するもの	
学習内容	
Exercises for SAT mathematics (Mathematical explorations)	
備考	
<p>次年度、数学特講イメージョン B の履修を希望する者はこの科目も履修することが望ましい。</p> <p>数学 B の単位としては認められないので注意すること。</p>	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p> </div> <p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 ・ さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動 ・ 数学を使い、つくる活動 <p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
5 学年 DP【Mathematics】の目標/伸ばしたい力	
<p>The aims of all DP mathematics courses are to enable students to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power 2. develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics 3. communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts 4. develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instill confidence in using mathematics 5. employ and refine their powers of abstraction and generalization 6. take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities 7. appreciate how developments in technology and mathematics influence each other 8. appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics 9. appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives 10. appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course 11. develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others 12. independently and collaboratively extend their understanding of mathematics. 	
ISS/DP 評価規準	評価方法
<p>< criteria></p> <p>A: knowledge and skills (max. 6)</p> <p>B: Reasoning and communication (max. 6)</p> <p>C: Inquiry approaches and problem solving (max. 6)</p> <p>[The total score:18／The scale for evaluation:1-7]</p> <p>[Method and tasks]</p> <p>Formative assessment: small quiz,</p> <p>Summative assessment: report task, exam</p>	<p><Criteria for Mathematical exploration></p> <p>Criterion A: presentation (max. 4)</p> <p>Criterion B: Mathematical communication (max. 4)</p> <p>Criterion C: Personal engagement (max. 3)</p> <p>Criterion D: Reflection (max. 3)</p> <p>Criterion E: Use of mathematics-SL (max. 6)</p> <p>[The total score:20]</p>
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
<p>知識・技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>A: knowledge and skills のスコアを用います。</p> <p>B: Reasoning and communication、C: Inquiry approaches and problem solving のスコアを用います。</p> <p>以下の 1～4 への取組で評価します：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中のグループ活動やディスカッション、 2. レポートタスクまたは数学探究、 3. 宿題、 4. 振り返り

学習内容

Functions (April-July)

Trigonometric functions, Exponential and logarithm functions with e , Some other modellings, Loans and annuities

Statistics (September-February)

Sampling and data, Discrete random variables, Probability distribution, the Normal distribution, Hypothesis testing, some other statistics

Mathematical exploration (February-April, dual-work with pre-calculus)

Each student must choose his or her own topic or research question and explore it, using mathematics.

Pre-calculus (February-March, continued to July)

Differentiation, (Properties of curves, Applications of differentiation)

備考

5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学とモラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い頼り合う関係性を発見する。	
5 学年【SS 化学基礎】の目標/伸ばしたい力	
SS 化学基礎は、本校の S S H (スーパーサイエンスハイスクール) 事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Chemistry の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。	
① 個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。 ② ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。 ③ データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。 ④ 科学技術の可能性とその限界への理解と意識	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：化学基礎（実教出版）	
副教材：サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）	
学習内容	
化学と人間生活 化学と人間生活のかかわり 物質の探究 物質の構成 物質の構成粒子（原子の構造、電子配置と周期表） 物質と化学結合（イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合） 物質の攻勢に関する探究活動 物質の変化 物質と化学反応式（物質、化学反応式） 化学反応（酸・塩基と中和、酸化と還元） 物質の変化に関する探究活動	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
5 学年【SS 地学基礎】の目標/伸ばしたい力	
日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。なお、SS 地学基礎は、本校のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：高等学校 地学基礎（数研出版） 副教材：地学図表（浜島書店）	
学習内容	
（１）宇宙における地球 ア 宇宙の構成 イ 惑星としての地球 ウ 宇宙における地球に関する探究活動 （２）変動する地球 ア 活動する地球 イ 移り変わる地球 ウ 大気と海洋 エ 地球の環境 オ 変動する地球に関する探究活動	
備考	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
5 学年【SS 物理】の目標/伸ばしたい力	
物理的な事物・現象についての観察、実験などをおこない、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を修得する。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：物理（東京書籍）	
学習内容	
<p>力と運動、波・光などの単元を通して、身近にある自然現象や応用技術など私たちの生活と物理学の関わりについて学びます。</p> <p><力と運動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 円運動と単振動（慣性力・万有引力など） 2. 運動量の保存（運動量と力積・反発係数など） 3. 剛体のつり合い（力のモーメント・重心など） <p><波・光></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 幾何光学（直進性、反射、レンズなど） 5. 波動光学（波の性質・回折と干渉・ヤングの実験など） 	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
5 学年【SS 生物】の目標/伸ばしたい力	
SS 生物は、本校の S S H(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、以下を身につけることを目指す。	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。 ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。 ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。 ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識。生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。 評価課題、実験ノートやワークシートへの記述 振り返りへの記述。グループワークへの貢献 探究活動に対する努力等
使用教材	
教科書：生物（数研出版） 副教材：スクエア最新図説生物（第一学習社） 問題集：セミナー生物（第一学習社）・セミナー生物基礎（第一学習社）	
学習内容	
6 年次開講の生物(3 単位)と合わせて、以下の内容について実験・観察・コンピュータによるシミュレーション等を通して学習する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生命現象と物質：生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探究し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえる。 (2) 遺伝情報の発現と発生：生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探究し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。 (3) 生物の環境応答：環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探究し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。 (4) 生態と環境：生物の個体群と群集及び生態系について観察、実験などを通して探究し、それらの構造や変化の仕組みを理解させ、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 (5) 生物の進化：生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、観察、実験などを通して探究し、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付ける。 	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
5 学年【サイエンスイマージョン A】の目標/伸ばしたい力	
<p>自然の事物現象について、量的・関係的な視点で観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、探究する能力と態度を獲得する。また、科学に関して、英語を用いて議論したり、考えたりする。</p> <p>具体的には次のような学力や姿勢を修得することをめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着 ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力 ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力 ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識 <p>サイエンスイマージョン A・B は、英語で科学的な探究活動を実施できるようになるための科目である。5 学年で開講のサイエンスイマージョン A は、研究課題を設定し、年間を通じて探究活動に取り組むことによって、実験観察の技能、数学的・統計学的なデータ処理、研究倫理への理解、成果の報告・発表の技能を身につける。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。 レポートや作品などの提出物 実験・観察への取り組み 探究活動（プロジェクト）への取り組みと成果
使用教材	
学習内容	
<p>科学的探究に必要となる以下の要素についての講義・実習および探究活動(プロジェクト)を通して、「科学の方法」について理解を深める。また、社会生活や先端技術への科学への応用など私たちの生活と科学の関わりについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究の意義 ・探究の過程 ・研究倫理 ・観察実験の技能 ・分析の手法 ・報告や発表の手法 <p>実施する探究活動のテーマとしては、例えば以下が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然事象や社会事象に関すること ・先端科学や学際的領域に関すること ・自然環境に関すること ・科学技術に関すること <p>サイエンスイマージョン A では、研究成果の発表の場として、各学会の Jr.セッションや大学や企業が主催する課題研究発表会などの外部研究発表での英語での発表への参加を積極的に勧める。また、探究活動の自律的活動を促すために、校内課題研究コンテスト(ISS チャレンジ)への参加を勧める。</p>	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。	
5 学年 DP【化学】の目標/伸ばしたい力	
化学の原理は、私たちが生活する物理的環境や生物システムの理解を支える土台となります。DP Chemistry では現実事象の理解や解決のために、実験・研究スキルの習得と化学の基本原理の学習が一体となった学習をします。学習過程においては、実験デザインに関わる全ての活動を個人で行います。科学的な知識、実験観察の技能、思考力や判断力、コミュニケーション力、ICT 活用力等、多様な能力やスキルをバランスよく習得していきます。	
ISS/DP 評価規準	評価方法
DP 化学の次の 3 つの評価目標（評価規準、観点）に基づいて評価します。3 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。	
規準 A：知識とその応用（7 点） 規準 B：分析・評価・統合（7 点） 規準 C：科学的研究スキル（7 点）	下記の①～④の 4 つの評価対象によって評価します。①～④のそれぞれについて、A～C の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。 ①単元テスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。 ②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験に則って実施します。 ③IA（内部評価）およびプレ IA の科学的探究の実験レポート。 ④その他、実験ノートの活用や授業内の議論等の学習状況全般：
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	単元テストや模試の評価に基づき、評価する。 単元テストや模試、実験レポートの評価に基づき、評価する。 授業中に実施する探究活動や議論への取り組みに基づき、評価する。
学習内容	
〈1 学期〉 構造 1．物質の粒子性のモデル 構造 3．物質の分類 反応性 2．量、速度、進行度 構造 2．結合と構造のモデル 〈2 学期〉 反応性 1．何が化学反応を促進するか 構造 1．物質の粒子性のモデル 反応性 3．化学変化の反応機構 構造 3．物質の分類 反応性 3．化学変化の反応機構	
★詳細については「DP 生徒用ガイド：Chemistry SL」を参照してください。	
備考	
「化学基礎」の履修を代替するものとする。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するために、運動やスポーツへの多様な関わり方を理解するとともに、体力の向上についての計画的、合理的な学習過程を通して、仲間と競争や協働しながら課題を発見し、主体的に解決を図る資質や能力を育てる。また、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
5 学年【体育】の目標/伸ばしたい力	
<p>運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。</p> <p>一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。</p> <p>より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。</p> <p>個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。</p> <p>他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。</p> <p>学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。</p> <p>各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。</p> <p>種目選択においては技術的な向上だけでなく、各競技を運営していくための能力を養うことができる。</p>	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解	規準 A：学期末テスト
規準 B：活動の計画	規準 B：体育ノート
規準 C：応用と実践	規準 C：試合におけるパフォーマンス
規準 D：活動の振り返りと改善	規準 D：体育ノート及び授業内における活動状況
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	知識・技能：学期末テスト、体育ノート、運動のパフォーマンス
思考・判断・表現	思考・判断・表現：学期末テスト、体育ノート
主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度：体育ノート及び授業内における活動状況
使用教材	
教科書：現代高等保健体育（大修館書店）	
副教材：Active Sports（大修館書店）	
学習内容	
男子 体づくり運動 陸上競技 水泳（アクアティックスポーツ） 球技（バレーボール） 体育理論	女子 体づくり運動 陸上競技 水泳（アクアティックスポーツ） 球技（バレーボール） 体育理論
男女共修 2 学期後半から男女共修 3 展開となります 選択種目Ⅰ（バスケットボール、テニス、ソフトボール） 選択種目Ⅱ（アルティメット、卓球、バドミントン） ※選択種目は変更になる場合があります	
備考	
見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するために、運動やスポーツへの多様な関わり方を理解するとともに、体力の向上についての計画的、合理的な学習過程を通して、仲間と競争や協働しながら課題を発見し、主体的に解決を図る資質や能力を育てる。また、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
5 学年【保健】の目標/伸ばしたい力	
心身の健康を保持増進するために必要な知識を身につけ、その概念を十分に理解したうえで実生活に結びつける能力。 健康に関する学習過程を検討した上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚して果たす能力。 他者との連携を図り、協力や責任力を持って行う力。コミュニケーション力を発揮しようとする力。レポートなどの提出物等決められた約束を守る力。	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解	規準 A：学期末テスト
規準 B：活動の計画	規準 B：体育ノート
規準 C：応用と実践	規準 C：試合におけるパフォーマンス
規準 D：活動の振り返りと改善	規準 D：体育ノート及び授業内における活動状況
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	学期末テスト
思考・判断・表現	プレゼンテーション、レポート等の課題
主体的に学習に取り組む態度	授業内における活動状況
使用教材	
教科書：現代高等保健体育（大修館書店）	
副教材：Active Sports（大修館書店）	
学習内容	
生涯を通じる健康 健康支える環境づくり	
備考	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
IB 教育の充実を図りながら表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。教科横断的な視点を取り入れることで音楽文化についての理解をより深め、創造的な音楽性を培う。	
5 学年【音楽Ⅱ】の目標/伸ばしたい力	
1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、より高度な表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 3 多様な音楽に対する理解を深め、活動を通し主体的に鑑賞する。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	歌唱テスト・器楽演奏・言語を含めた楽曲の編曲 楽譜などから読み取れる音楽的な指示や、作品の曲調から適切かつ効果的な表現を追求していきます。
思考・判断・表現	音楽分析 学習中の楽曲に対し、作曲者や時代背景、また、和音や構成、歌詞の読解などを含む音楽的な分析をします。
主体的に学習に取り組む態度	プロセスジャーナル、授業の取組の様子 作品へ向かう姿勢やスキル修得のための姿勢などから評価します。 プロセスの記録や動画記録などから意欲、態度を評価します。
使用教材	
教科書：MOUSA 2（教育芸術社）	
学習内容	
「表現」 多様な音楽ジャンルにおける 5 部合唱から 6 部合唱の響きへと、相互の表現力を高めていきます。楽曲の和声的、形式的理解や、純正律を意識しながらハーモニーをつくることを、授業を体験しながら理解を深め、高度なコーラスを目指します。 ・音楽表現に関わる高度な学習 多様なジャンル、音楽体系の表現方法を追求し、幅広い音楽に普遍的に表現できる力を育てていきます。特に、即興を含む表現力やアンサンブルの技能を伸ばしていきます。 ・楽曲分析に基づく表現の学習 方向性のある音楽づくりという観点で、理論・感性に基づく自己表現方法を追究します。また、作曲・編曲の理論とも合せながら、分析力を高めていきます。	
「創作」 ソルフェージュの内容もふまえて、モチーフを活かした単旋律の創作や、基礎和声の範囲での和音付けなどの編曲を行います。生徒の進路に合わせ、ジャンルに合わせた創作作品に取り組みます。 ・ソルフェージュ、和声（和音）の学習 新曲視唱、聴音、リズムの書き取りなどソルフェージュ、基礎和声学やポピュラー音楽などの視点から和音の学習をおこないます。	
「鑑賞」 初期の音楽からコンテンポラリーまでの幅広い時代の音楽鑑賞を通して、それぞれの時代の作品や作風、技法などを捉えながら鑑賞力を高めていきます。 ・ルネサンス期～現代までの音楽鑑賞 中世ヨーロッパの音楽を体験的に鑑賞しながら、時代の推移に合わせて音楽がどのように発展し、現代にまで至るのかを理解していきます。	
備考	
4 年次に音楽Ⅰを履修していること。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
5 学年【美術Ⅱ】の目標/伸ばしたい力	
美術科では 6 年間で 3 段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3 つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。（4 年次は選択必修）美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。	
5 年生は多様な表現や文化への関心を持ち、豊かな感性を持って創造する力を高める時期ととらえ、授業を展開していきます。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	作品・課題・授業中の活動などをもとに評価する。
思考・判断・表現	アートジャーナル・作品・授業中の活動などをもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	アートジャーナル・作品・課題・授業中の態度などをもとに評価する。
使用教材	
教科書：美術 2（光村図書）	
学習内容	
<p>1）作品</p> <p>主題をもとに様々な分野の表現方法を試して制作・鑑賞しながら、創造的スキルを高め、自分の意図に合った表現方法を模索します。</p> <p>（主な学習内容・活動内容）絵画、デザイン、3D モデリング、彫刻、映像メディア表現</p> <p>2）アートジャーナル</p> <p>作品制作と関連して、学習をより深める為に追究すべきことを設定し記録します。</p> <p>（主な学習内容・活動内容）美術の文化・歴史・作家・作品・表現の調査と分析、表現技法の研究、アイデアスケッチ、自他の表現の振り返りと評価</p> <p>* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。</p>	
備考	
4 年時に美術Ⅰを履修していること。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
5 学年 DP【美術】の目標/伸ばしたい力	
In DP Visual Arts students will experiment with a wide variety of genres and styles while exploring their own creative and cultural backgrounds. The course will focus on finding personal identity as well as understanding how the visual arts can affect society and the environment around us. Students will develop the ability to express their ideas for lifelong use.	
ISS/DP 評価規準	評価方法
At the end of each school term, students will be evaluated by the school-based DP visual arts assessment criteria.	
Criteria A : Analytical Thinking Criteria B : Artistic Expression Criteria C : Communicating Through Art Criteria D : Developmental Process	Evidences; The Art Journal (Nonverbal visualization are included.) Art Works Presentation Reports Planning of the art Exhibition
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
学習内容	
1 st semester/ April-May	Expressing myself through art
1 st semester/ June-July	Expressions in diversity
1 st semester/ July	Art fieldwork
Summer Vacation	Comparative Study (1)
2 nd semester/ September	Exhibition Appreciation
2 nd semester/ October-November	Art and environment
2 nd semester/ December	Comparative Study (2)
3 rd semester/ January	Thematic elements
3 rd semester/ February	Themes in art
3 rd semester/ March	Art fieldwork
* 活動の調整等で内容が多少変更することがあります。	
★詳細については「DP 生徒用ガイド : Visual arts SL」を参照してください。	
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

3 か年を通じた教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
5 学年【書道Ⅱ】の目標/伸ばしたい力	
5 年生の芸術書道は、書道における専門的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学び、豊かな芸術表現活動ができるようにします。書の様々な表現に触れながら、書における文化的活動の体験を通して、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	作品・授業中の活動などをもとに評価する。
思考・判断・表現	作品・授業中の活動などをもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	課題の提出状況や授業中の態度などをもとに評価する。
使用教材	
教科書：書道Ⅱ（教育図書）	
学習内容	
<p>【1 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書道Ⅰの復習と書道Ⅱの導入 ●漢字の書の学習 <p>採択体験／書体の変遷／篆書の成立・特徴／篆書の基本用筆／臨書学習①「泰山刻石」「石鼓文」「甲骨文」／隸書の成立・特徴／隸書の基本用筆／臨書学習②「礼器碑」／行書の特徴と書風比較／臨書学習③「集王聖教序」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●篆刻 <p>篆刻の方法と手順／落款印の制作</p> <p>【2 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仮名の書の学習 <p>仮名の用筆の復習／散らし書きの鑑賞と方法／臨書学習①「寸松庵色紙」「升色紙」「継色紙」／表現と鑑賞の関連／鑑賞を見据えた作品づくり／創作作品制作（仮名、散らし書き）料紙作り、紙の加工／表具</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実用書（年賀状） <p>【3 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漢字仮名交じりの書の学習 <p>漢字と仮名の調和、書く言葉の内容と表現の関係／古典を生かした表現／創作作品制作</p>	
備考	
4 年時に書道Ⅰを履修していること。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。	
5 学年【英語コミュニケーションⅡ】の目標/伸ばしたい力	
5 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。前期課程及び 4 年生で身につけた知識の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。既習の語彙・文法を活用しながら、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A : Listening	テスト
規準 B : Reading	テスト
規準 C : Speaking	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー等
規準 D : Writing	テスト、文法問題、作文、エッセイ等
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	規準 A (Listening)・規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing) ・Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)
使用教材	
教科書：CROWN English Communication II (三省堂)	
学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて多様な授業が開講されます。 ・週 4 時間授業がありますが、その内の 2 時間を日本人教員、残りの 2 時間をネイティブ教員が担当し、全観点に取り扱います。 	
<div>Core</div> <p>文部科学省検定教科書を中心に授業を進め、基礎から復習する。</p>	
<div>Basic</div> <p>文部科学省検定教科書を扱いながら授業を進め、速読を中心に様々な活動を行う。</p>	
<div>Basic Plus</div> <p>文部科学省検定教科書のトピックを用いながら意見を深め、大学入試等で利用できるスキルや語彙の伸長も図る。</p>	
<div>Advanced English</div> <p>What will we do? We will learn to think logically and critically, argue fairly and effectively, and act with justice and compassion. How? By researching difficult social issues and debating them formally. Why? To become wise and powerful forces for good in the world.</p>	
備考	
この科目は選択です。ただし、習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。	
5 学年【論理・表現 I】の目標/伸ばしたい力	
5 年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。	
ISS 評価規準	評価方法
規準 C : Speaking	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準 D : Writing	作文、文法問題、エッセイ、テスト
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 C (Speaking)
主体的に学習に取り組む態度	規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)・Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)
使用教材	
教科書 : CROWN Logic and Expression I (三省堂)	
学習内容	
英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科、芸術など 他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。	
<div>Core English Expressions</div> <p>In this class we will learn about various topics in English and talk/write about them.</p>	
<div>Basic English Expressions</div> <p>In this class we will learn about various topics in English and talk/write about them.</p>	
<div>Discussing cultural and current issues (Basic)</div> <p>Learning about various cultural and current topics and discussing them.</p>	
<div>Discussing cultural and current issues (Advanced)</div> <p>Learning about various cultural and current topics and discussing them.</p>	
<div>English Output Writing</div> <p>This course will cover all aspects of modern professional presentations in detail. To begin with, we will cover the four basic areas of presentations - Advance Planning, Appropriate Content, Advantageous Structure, Amazing Design, and then finish with Awesome Delivery. These are what I call the 5 A's of presentations. When we have covered these in detail students will then have numerous opportunities to practice giving presentations at the necessary level.</p>	
備考	
この科目は選択です。5 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。	
5 学年 DP【English A】の目標/伸ばしたい力	
1. Communicate clearly and effectively in a range of contexts and for a variety of purposes. 2. Understand and use language appropriate to a range of interpersonal and/or intercultural contexts and audiences. 3. Understand and use language to express and respond to a range of ideas with fluency and accuracy. 4. Identify, organize and present ideas on a range of topics. Understand, analyze and reflect upon a range of written, audio, visual and audio-visual texts.	
ISS/DP 評価規準	評価方法
規準 A : Oral skills 規準 B : Receptive skills 規準 C : Writing skills	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ作文
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	規準 B Receptive skills 規準 A Oral skills + 規準 C Writing skills 規準 A Oral skills + 規準 C Writing skills + Effort（日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価）
学習内容	
This 2-year (5th and 6th year) course is designed to help students become skilled English communicators in authentic situations. Students will study various types of texts ranging from news articles to blog posts. In addition to these texts, students will also read two works of literature. Intriguing issues of English-speaking cultures on topics from identity to human ingenuity will be explored.	
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。	
5 学年【家庭基礎】の目標/伸ばしたい力	
<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	振り返りシート・小テスト・定期テスト・レポート
思考・判断・表現	振り返りシート・小テスト・定期テスト・レポート
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート・小テスト・定期テスト・レポート
使用教材	
教科書：Agenda 家庭基礎（実教出版）	
学習内容	
「人の一生と家族・家庭及び福祉」	生涯の生活設計、青年期の自立と家族・家庭、子供の生活と保育、高齢期の生活と福祉、共生社会と福祉
「衣食住の生活の自立と設計」	食生活と健康、衣生活と健康、住生活と住環境
「持続可能な消費生活・環境」	生活における経済の計画、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境
「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」	ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動
備考	

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
身のまわりの様々な活動において、情報や情報手段を活用した問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得するとともに、実際にそれらを活用し、チームで協働して問題解決を実践する能力と態度を身につける。	
5 学年【インフォマティクス】の目標/伸ばしたい力	
<p>これまでの情報の授業で習得した知識や技能を活用して、実践的な問題解決に応用する機会としてチームでプロジェクトを遂行し、情報活用の実践力を高める。</p> <p>○問題の発見、明確化、分析及び解決の方法を身につけ、問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択し、プロジェクトとして実行できる。</p> <p>○問題解決におけるデータや I C T の活用方法を身につけ、情報を活用することの有用性を理解する。</p> <p>○モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、実際の問題解決に活用できる。</p> <p>○情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し、問題解決にデータを活用できる。</p> <p>○問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解する。</p> <p>○創造的思考力と合理的判断力を身につけ、問題解決の実践力を高める。</p> <p>○チームのメンバーと協働でプロジェクトを遂行するとともに、協働作業（プロジェクト）における自分の役割や特長を理解し、将来（社会）生かせるようにする。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価は、プロジェクトなどのタスク単位の課題および成果物・レポートを対象とし、3 つの評価基準に基づいて行う。
学習内容	
<p>授業の展開はプロジェクトで構成し、あわせて各プロジェクトに対応した講義と実習を展開する。プロジェクトは個人もしくはチーム（グループ）で行い、学校内外のイベントと連携したり、他校（大学を含む）と連携して協働するとともに、外部評価をうけたり改善の手立てとする。プロジェクトはタスク単位に分割して展開するが、実習内容の順序が時間的に前後する場合があるので、授業を通して配布される教材や成果物をファイリングするなど各自で学習内容の管理に努めること。</p> <p>〈問題解決を支える情報科学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決とコンピュータの活用（表計算とシミュレーション） ・問題解決におけるモデル化とシミュレーション（セルオートマトンシミュレーション等） ・実験計画と統計的探究と実験計画（シミュレーションの活用・検定など） <p>〈創造的思考力を支えるプログラミングスキル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング言語の探究（Java Script + Encaht. js）《Super Shape Shot》 ・Web アプリの開発環境の構築（Cloud9）《Web API を用いたプログラミング開発》 ・データサイエンスの活用（人工衛星データ）とプログラミング（Google Earth Engine） <p>〈協働プロジェクトによるシステム開発〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会問題を解決するプログラミング ・協働を支える情報技術（cloud9 trello） ・協働とプロジェクトの評価 	
備考	

理数科・5/6 学年【理数探究・各 1 単位】 Inquiry-Based Study of Science and Mathematics

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、モデルを作成する、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
【理数探究】の目標/伸ばしたい力	
<p>様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次の通り身に付けることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付ける。 2. 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を身に付け、創造的な力を高める。 <p>様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を身に付ける。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	研究計画書・研究経過報告書・論文・行動観察・研究ノート・振り返りなどを用いて、各観点に応じて、以下の視点から評価します。
思考・判断・表現	自分の研究の位置づけや価値を明確化することができるか／自分の研究の過程を見通し、実践することができるか／研究倫理について理解しているか／論文を執筆するための技能や効果的に発表するための技能を身に付けているか
主体的に学習に取り組む態度	探究の意義や過程、研究倫理を踏まえ、多角的、複合的に事象を捉え、課題(研究テーマ)を設定することができるか／数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行することができるか／探究の過程を整理し、成果などを適切に表現することができるか 様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い、課題を設定しようとしているか／設定した課題に対して誠実に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとしているか／探究の過程を振り返って評価・改善しようとしているか
使用教材	
学習内容	
<p>2 年間を通して、課題研究を実施します。「理数探究」の対象となる事象は自然科学だけではなく、社会科学や人文科学、芸術やスポーツ、生活に関するものなどあらゆるものが含まれます。これらの事象について科学的な手法を用いて（数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を働かせることで）探究できるものです。具体的には以下のようなものになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自然現象や社会現象に関すること ◇ 先端科学や学際的領域に関すること ◇ 自然環境に関すること ◇ 科学技術に関すること ◇ 数学的事象に関すること 	
備考	
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本科目は 2 年間にわたる分割履修です。5 年生と 6 年生のそれぞれで週 1 時間開講されます。5 年次に本科目を選択した場合、6 年次でも必ず本科目を履修することになります。途中で変更はできません。 ◇ 本科目を履修する生徒は、5 年次の履修届と同時に、研究内容の方向性がわかるもの(別途様式を作成予定)を提出すること。 	

国際教養・1～6 学年【国際 1～6】

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。 2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。 3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。 <p>ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る 3 つの視点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。 ○ 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。 ○ 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。 	
各学年【国際】の目標/伸ばしたい力	
<p>〈1 年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。</p> <p>〈2 年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。</p> <p>〈3 年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。</p> <p>〈4 年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。</p> <p>〈5 年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。</p> <p>〈6 年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。</p>	
MYP/ISS 評価規準	評価方法
総合的な学習/探究の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はあります。	各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	<p>各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。</p> <p>国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。</p>
学習内容	
1 年 「国際 1」、「Learning in English 1」 2 年 「国際 2」、「Learning in English 2」 3 年 「国際 3」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」 4 年 「MYP Personal Project／課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」 5 年 「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」 6 年 「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」	
<p>上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。</p>	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
「国際教養」の目標は以下のとおりである。 1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。 2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。 3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。	
各学年【総合的な探究の時間】の目標/伸ばしたい力	
上記の通りですが、各学年ではそれぞれ特に次のことを目指します。 〈4 年生〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、課題について調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。 〈5 年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。 〈6 年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。	
〈国際 4〉Personal Project MYP 評価規準	評価方法
合計 24 点満点・7 段階 規準 A 計画(8 点) 基準 B スキルの応用(8 点) 規準 C 振り返り(8 点)	Personal Project はプロポーザル、プロセスジャーナルのエビデンス、報告レポート(9 月提出)、完成成果物(9 月提出)、自己評価(9 月提出)、出席状況・取り組み状況を材料として評価します。
〈国際 5/6〉総合的な探究の時間 評価基準	評価方法
合計 24 点満点・6 段階 規準 A 研究の目的と意義：6 規準 B 研究の方法・計画と資料の収集：6 規準 C 結果と考察：6 規準 D 結論と課題・展望：6	総合的な探究の時間は、中間論文（5 年）・最終論文（6 年）を評価します。その他、形成的評価として研究計画書や研究経過報告書、出席状況や取り組み状況を評価します。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	研究計画書・研究経過報告書・論文・行動観察・研究ノート・振り返りなどを用いて、各観点に応じて、以下の視点から評価します。なお総合的な探究の時間は記述での評価となります。 ● 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。 ● 現代的な諸課題から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。 ● 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。
学習内容	
〈国際 4〉Personal Project ● MYP の学習の集大成として Personal Project に取り組む。 ● 自らの興味関心に沿って社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、学習目標と成功規準を作成した上で、自分の力で調査し、分析し、成果物や報告レポートを仕上げ、プロジェクトという形にする。 〈国際 4 後半/5/6〉総合的な探究の時間（課題研究） ● 本校における探究学習の集大成として、2 年間(実際には 4 年生後半から)かけて「課題研究」に取り組む。 ● 自分の問題意識に照らして研究課題を設定し、適切な研究方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。 〈国際 5〉海外ワークキャンプ ● 本校独自の学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。 ● 海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。	
備考	
4 年生の「総合的な探究の時間」(前半は Personal Project、後半は課題研究)は、生徒全員が履修します。 5 年生・6 年生の「総合的な探究の時間」(探究)は、「理数探究」との選択必修修となり、2 年間にわたって必ず履修します。	

国際教養群・5 学年【英語以外の言語：フランス語/ドイツ語/スペイン語/中国語/韓国・朝鮮語・2 単位】

French, German, Spanish, Chinese, Korean

6 か年を通した教科目標/養いたい力	
国際教養の科目として、多文化理解を深め、コミュニケーションスキルを育成し、英語以外の言語の言語能力の獲得を目指します。	
5 学年【英語以外の言語】の目標/伸ばしたい力	
国際教養の科目として、母語としての MYP 言語 A（国語）および付加的言語としての MYP 言語 B（英語）に加えて、MYP の 3 つの基本概念のひとつである多文化理解を深めるために、英語以外の言語の初級から中級の言語能力の獲得を目指します。	
MYP 評価規準	評価方法
規準 A：Listening	テスト
規準 B：Reading	テスト
規準 C：Speaking	インタビュー、スピーチ、プレゼン
規準 D：Writing	テスト：単語、文法問題、作文
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	規準 A (Listening)・規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)・Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)
学習内容	
各言語の基本的な発音、語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に学びます。また各言語圏の文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。	
【フランス語】 教科書とプリント教材を使用し、初級から中級レベルの文法を学びながら、日常会話を中心にコミュニケーション活動のためのフランス語習得を目指します。また、フランス語圏の国々の文化への興味・関心の育成を目指します。	
【スペイン語】 教科書と講師オリジナルのプリントを使用して、初級から中級レベルの文法を学びながら、すぐに役立つ日常会話も学びます。ここでのスペイン語学習のモットーは「楽しく新しい言語を学ぶ」ことです。映像や音楽を通して、スペイン語圏の文化や暮らしを学ぶことを大切に学習を進めていきます。	
【ドイツ語】 ドイツ語の初級から中級レベルの知識、日常表現の習得を目指します。授業では C D や D V D 教材なども使用し、実際にドイツ語を使う場面を想定した練習をしたいと思います。音楽や文学、スポーツなど、ドイツ語圏の文化にも触れる予定です。	
【中国語】 教科書とプリント教材を使用し、初級から中級レベルのコミュニケーションのための中国語を勉強しながら、中国及び中国語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。	
【韓国・朝鮮語】 教科書とプリント教材を使用し、初級から中級レベルのコミュニケーションのための韓国/朝鮮語を勉強しながら、その言語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。	
備考	
この科目は選択科目です。5 学年で選択する言語は、4 学年と同じ言語を選択しなければなりません（言語の変更は原則認められません）。	
4 学年で <Global Issues> を選択した場合、5 学年では <英語以外の言語> を選択できません。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
4 年次（2 単位）と 5 年次（2 単位）で英語で様々な地球規模の今日的課題について学び、考え、自分の意見をまとめる力をつけることを目標とします。	
5 学年【Global Issues】の目標/伸ばしたい力	
知識と概念を理解し、それらを様々な社会的、文化的、歴史的、個人的な文脈において活用できる力と、コミュニケーション能力の育成を目指します。	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識と理解 規準 B：調査研究 規準 C：コミュニケーション 規準 D：批判的思考	インタビュー、ワークシート、作品、テスト、スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、ディスカッションによって、規準 A～D の観点を評価します。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	規準 A 知識と理解・規準 B 調査研究 規準 C コミュニケーション・規準 D 批判的思考 規準 C コミュニケーション・規準 D 批判的思考・Effort（日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価）
学習内容	
以下のようなトピックを、じっくり時間をかけて多角的に取り扱うことを予定しています。 国際紛争、国際貢献（国際連合、ソーシャル・ビジネス）、南北問題	
備考	
この科目は選択です。授業で使用する言語は英語です。4 学年で＜英語以外の言語＞を選択した場合でも、5 学年で＜Global Issues＞を選択することができます。	